公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書　（２０２２年度 助成者）

作成日　2022 年　　9 月　　10 日

氏名（フリガナ）	永田萌々(ナガタモモ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	２０２２年８月１５日（月）～８月２０日（土）
大学名 学年	愛知医科大学 ６年

まず初めに、この度医学部夏期集中医学英語研修プログラムへの参加の機会を賜りましたことに感謝申し上げます。プログラムにおいて自身が経験したことやそこから得られたことについて、ここにご報告させていただきます。

私がこのプログラムに応募したのは、現地の先生や医学生の方々と共に学習することで自身の医学英語の実力を知り、さらに他大学の方々との交流を通して自身のキャリアプランを模索したいと思ったからです。

主な研修内容は、PBL の実践と Medical interview と Case Presentation の練習でした。また、現地の先生方のレクチャーや講演、そして St.Luke's クリニックと John A. Burns School of Medicine (UH Medical School)の見学の機会も設けていただきました。私は 6 年生として参加したこともあり、大学での臨床実習での経験や知識を活かすことはできたのですが、やはり自身の医学英語のスキルの至らなさを痛感しました。初めは英単語を思い出すことにも時間がかかってしまい、米国ならではの医療面接のポイントを掴むことに苦戦しましたが、このプログラムでは繰り返し実践する時間を多く設けられており、周りの仲間や先生方に助けていただきながら、至らないながらにも最後には自信をもって Medical interview と Case Presentation を行うことができるようになりました。今回のプログラムには全国様々な大学から 3 年生～6 年生が参加していました。自分よりも後輩にあたる子たちが高い志と豊富な知識を持っていて感心してしまうとともに、来年以降医師として働く身として身の引き締まる思いがしました。

St.Luke's クリニックの見学では、ハワイでの一般外来の様子を見学させていただきました。率直な感想として診察室からの眺めの良さに感動しました。ハワイという地には日系人や日本人観光客も多く、日本人医師がハワイでの診療を行うことにはメリットも多いと感じています。私もこのような素敵な環境で働くことができればいいなと夢を感じられる場所でありました。JABSOM Tour では現地の医学生の方が大学構内を案内してくださいました。ハワイの医学生がどのような学習環境で過ごしているのかを知ることができ、日本の医学教育との違いを感じました。中でも、リアルな診察室が用意されていて、入学して間もなくから模擬患者さんと 1 対 1 での医療面接を行い、先生からのフィードバックを受けるという授業がありとても緊張すると言っていたのが印象的で、早くから臨床スキルを重視している印象を受けました。

先生の講演で私が特に心に残ったのが、Tripler Army Medical Center の Dr. Colonel Bruce A. ONG のお話です。彼は小児科医をめざしていたこともあるなか、現在は軍医としての勤務をされているそうです。日本人には少し馴染みの薄い軍医としての経験談は私にとって新鮮であり、同時に今後の自身のライフプランもいかようにも自分次第で刺激的なものにできるのだと感じました。また、自身の持つ目標からは遠回りに見える変化が起きたとしても、自分次第でさらにステップアップした目標を持つきっかけになるのだと思うことができました。

医学部夏期集中医学英語研修を通じて、日本とハワイの多くの学生や先生方との交流を楽しむことができました。実際に現地で対面にて何事を行うにも不自由な社会情勢の中、こうして皆さんと顔を合わせてお話できる機会をいただけたことに感謝をし、この経験を自身の周りに還元していくことがお世話になった方々への恩返しだと思います。恩返しできるよう、これからも様々なことに挑戦と努力をしていきたいです。最後になりましたが、今回お世話になりました日米医学交流財団の皆様、小林恵一先生をはじめとしてご指導いただきました先生方、現地のスタッフの方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。